| 研究分野 | 授業科目名 | 科目責任者 |
|---|---|---|
| 組織培養・免疫系分野 | 感染症病態制御学特論Ⅰ・Ⅲ | 大石　智洋 |

| 開講年次 | 共通／専攻／選択 | 単位数 | |
|---|---|---|---|
| 1,2,3,4 | 特論Ⅰ：必須専攻,<br>特論Ⅲ：選択 | 特論Ⅰ：4（2/年）,<br>特論Ⅲ：1/年 | |

## 目的

感染症の病態解明を目的として，基礎ばかりでなく臨床現場における疑問点を抽出し，これを解明するために必要な実験計画や臨床研究計画の立案と評価をする。

## 授業到達目標

（1）感染症の病態・診療における疑問点を抽出できる。
（2）感染症のエビデンスの集積ができる。
（3）感染症のエビデンスの評価ができる。
（4）感染症の研究計画の立案ができる。
（5）感染症の研究データの評価ができる。
（6）感染症の研究データに基づいて研究計画の改善ができる。
（7）自分の意見を他の参加者に要領よく伝達できる。

## 授業計画

| 回数 | 月日 | 曜日 | 時間 | 担当者 | 区分 1 | 区分 2 | 授業内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 毎週 | 火 | 14:00-15:00 | 大石　智洋 | 講義 | [抄読会] | 学生は感染症領域の英文抄読会に参加し，感染症の論文を紹介する。<br>[場所:臨床感染症学教室] |
| 2 | 毎週 | 金 | 16:00-17:00 | 大石　智洋 | 講義 | [抄読会] | 学生は感染症の病態や診療における不明点を討議し，解決に必要な研究を立案する。<br>[場所:臨床感染症学教室] |

## 評価方法

【特論Ⅰ】
（1）１年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）１年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

## 課題（レポート等）に対するフィードバック

紹介論文の要約について，添削して返却しフィードバックする。

## 教科書

ISBN-9780323482554, Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases＜2 volume set＞（9th Edition）, John E. Bennett, et al., ELSEVIER, 2019

## 参考書

ISBN-9780323376921, Feigin and Cherry's textbook of pediatric infectious diseases, James Cherry, et al., ELSEVIER SAUNDERS, 2018

## 準備学習（予習・復習等）

（1）各検討会や抄読会で提示される感染症の病態，診療における留意事項を Web，教科書，参考書で事前に調べる。
（2）講義終了後，指摘された事項について復習し，復習した内容をまとめる。
準備学習を１時間以上行ってください。

## 修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

関連する課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を習熟する。

## 注意事項・メッセージ

英文論文を読む習慣を身につけていきましょう。